

# Oracle Cloud Days Tokyo 2016

Digital AIDとクラウドがもたらすビジネスの明日

2016年10月25日(火) 26日(水)  
ウェスティンホテル東京



## D1-B2

14:15 p.m. - 15:00 p.m.

## セッションレポート

エキサイト株式会社 | Modern ERP/EPM Summit



エキサイト株式会社  
経営企画室  
経営企画セクションマネージャー  
山口 栄貴氏

経営環境の変化を支えたクラウド予算管理  
さらなる負荷軽減を目指してオラクルへ移行  
導入後は運用保守コストが最小化  
エキサイト株式会社

ポータルサイト運営によるインターネット広告事業、およびブロードバンド事業を展開するエキサイト株式会社。同社は2010年、これまでExcelを利用して行ってきた予算管理業務をクラウドシステムへと移行した。その背景には同社を取り巻く経営環境の変化があったと、経営企画室 経営企画セクションマネージャーの山口栄貴氏は語る。

Oracle Digital  
ご質問・ご要望に  
スピーディにお応えします。  
お問い合わせフォーム >  
お電話でのご相談はこちら  
0120-155-096  
(祝日及び年末年始休業日を除きます)



「当社は2007年の業績悪化を機に事業の選択と集中を進め、2010年に黒字化を果たしました。“守り”から“攻め”へと転換しようという時期に抱えていたのが、Excelによる予算管理の課題でした」  
(山口氏)

当時、当社では例えば月次見通しを各現場担当者がExcelシートに集計し、それを各事業部責任者が回収/マージ。次にそのシートを本部責任者が回収/マージしたのち、さらに経営企画が回収/マージするという集計を行っていた。当然のことながら集計コストが増大し、不要なコピーも含む無数のExcelシートを管理しなければならないという問題が生じていた。またExcelの回収/マージ作業やレポート作成作業に時間がとられて分析が行えないこと、組織変更やサービス入れ替えに伴う作業が頻繁に発生するなど、人的ミスのリスクが常に顕在化し、安定性や迅速性、正確性に欠けることも課題だった。

クラウドシステムへの移行後は、回収/マージ作業から開放され、分析を行う時間に余裕が生まれた。また人的ミスの発生リスクを最小化することもできたという。

「しかし、集計業務は楽になったかもしれませんが、抽出したデータはそのまま報告データとして使うことはできず、レポートとして再加工する必要があり、そのための作業負荷は依然として残ってありました。また、組織変更時などの際には配賦など計算仕様を組織アカウント毎にひとつひとつ変える必要があるなどメンテナンス負荷も非常に高かったですし、組織変更後の対過年度比較は手動で手間をかけて行う必要がありました。以前のクラウドシステムがブラウザやJavaバージョンに依存していること、例えば、Javaを最新に更新すると急にツールが動かなくなったりするなども課題でした。導入してから5年間使っていたが思っていたような機能拡張ができなかった点などもあります。そのような状況の中、入替えようと思ったきっかけは当社の導入パートナーがそのクラウドサービスから撤退したことであり、次のツール探しをはじめることになりました」(山口氏)

# Oracle Cloud Days Tokyo 2016

Digital AIDとクラウドがもたらすビジネスの明日

2016年10月25日(火) 26日(水)  
ウェスティンホテル東京



## D1-B2

14:15 p.m. - 15:00 p.m.



エキサイト株式会社  
経営企画室  
経営企画セクションマネージャー  
山口 栄貴氏

複数の製品／サービスを比較した結果、エキサイトは「Oracle Planning and Budgeting Cloud Service (PBCS)」への移行を決定した。選定理由として山口氏は、①標準搭載のサンドボックス環境（開発環境）がついていること。これにより、例えば、組織変更を行うときなどは本番環境に反映する前にテストを行えたりもできます。②ブラウザ／Javaバージョンに依存しない環境であること、③堅牢なセキュリティ対策とBCP対応を実現していること、④アドインでExcelから直接データベースにアクセスできること、これはExcelから入力やレポート作成もできるのでかなり便利です。



PBCSの導入プロジェクトは、従来システムの置き換えだけでなく、PBCSの標準機能を利用することによる改善効果、機能拡張による改善効果も合わせて実現するというビジョンを持って進められた。2015年10月に設計・実装を開始し、運用テスト、ユーザー教育、マニュアル作成なども並行して行い、2016年2月に本番運用を開始した。スケジュールは当初の計画よりも1か月早く進んだという。

 Oracle Digital

ご質問・ご要望に  
スピーディにお応えします。

 お問い合わせフォーム >

お電話でのご相談はこちら  
0120-155-096  
(祝日及び年末年始休業日を除きます)

「PBCSの導入による最大の成果は、レポート加工作業の負荷を軽減できたことです。従来手間がかかっていましたが、今は、ボタンを押すだけになりました。また、手作業で行っていた組織変更による組み換えが年度別の組織階層としてシステムに保持できるようになり、過年度比較が容易になりました。また、多次元の特徴を生かしアドホック分析がExcelで簡単にできるようになったことで非定形なレポート作成も非常に容易になりました。今まで現場部門にとっては予算や見通しの入力ツールにすぎなかったですが、こういったことができることで採算管理の意識の醸成にもつながったと思います。さらに導入パートナーの支援により、経営企画部門だけで運用・メンテナンスが可能となり、運用保守のコスト削減も実現できました。」(山口氏)

まずは従来システムの置き換えからスタートしたPBCSの利用だが、山口氏によれば、今後はより精密な売上／経費分析、PVや会員数などのKPI分析、他のBIツールとの連携、為替差損益のシミュレーションなど、徐々に機能を拡張していく予定である。

また、最後に山口氏は、自社の経験を元に製品選定について以下の言葉で締めくくる。「2つのクラウド製品を入れ替えることとなったが足元の課題のみの解決だけでなく、今後どのような管理・分析体制にしたいのか将来も見据えて行うべきである。とはいえ、最初から、ベキ論や理想像を机上で追い続けるよりは、クラウドでまずは始めてみて試行錯誤的に進めていくことが重要である。最初は簡単なものからスモールスタートし、ゆくゆくは拡張開発できるようなツールを選ばれるのがよいのではないだろうか」